

第2回全国理事会報告

去る7月27日（水）夏の全国大会の幕開けを告げる、第2回全国理事会が開催されました。まだ、梅雨が明けていない地域がある中、会場の島根県出雲市市民会館がある出雲市は猛暑。全国各地より総勢53名の方々が集まり、平成28年度の事業経過報告や本大会概要説明、全国基本調査の報告等が行われました。

<会長挨拶>

会長 寺崎 晶子(世田谷区立駒沢小学校校長)

5月にお会いしてから2か月半ほどたちます。その時は窓からはビルばかりが見える駒沢小での開催でしたが、出雲市に参りまして、窓から山が見えるとホッとすると感じます。会長になり4か月たち、現在の気持ちは変わってきました。きこえの教室、ことばの教室の子供たち、授業の様子を見て、保護者面談にも関わらせてもらいました。涙を流しながら退級していく子供たちを見て、会長としての気持ちが固まってきました。今日からの大会は、楽しみな3日間です。

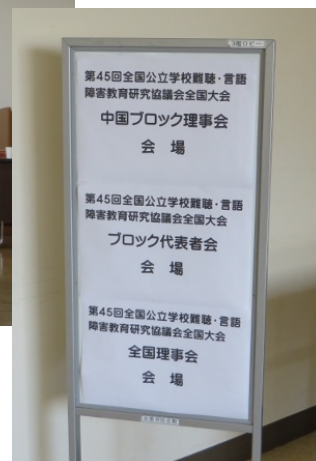
<来賓挨拶>

島根県教育庁特別支援教育課 課長 三島 賢隆 様

島根県の特別支援教育の現状について説明させていただきたいと思います。今日の理事会、全国大会が成功裏に終わることを祈念いたします。

◎島根特別支援教育推進プランについて◎

- ・小・中学校すべてで、少人数学級編成（35人学級）。きめ細やかな支援ができる
- ・特別な支援のための非常勤講師配置事業（にこにこサポート事業、にこ特サポート事業）。
- ・通級指導教室は、全ての障害種に対応するという方針。1026名が通級指導教室の指導を受けている。昨年度からは、発達障害児童の人数が言語障害の児童の人数を上回った。
- ・難聴学級では、通常の学級に在籍したり、聾学校の通級指導を受けたりしている。
- ・高校の特別支援教も4年目に入った。特総研で研修を受けた高校教員が、放課後SSTの指導をしている。邇摩高等学校では、出雲特別支援学校の分教室と連携して文科省のモデル事業を行っている。



<議 事>

◎島根大会について

島根県大会実行委員長 濱村 洋二 先生

大会概要・総会の運営について・大会宣言について検討された。

◎次期全国大会（第46回近畿大会）について

近畿ブロック代表 足立 貢 先生

・平成29年7月27日(木)、28日(金)に天満研修センターで、近畿6府県の共催で開催される。

◎第47回以降の全国大会について

- ・第47回 福島県福島市で、平成30年7月26日(木)、27日(金)に開催予定。
- ・第48回(平成31年度)は、東海ブロック・三重県。第49回(平成32年度)は、中国ブロック・岡山県。第50回(平成33年度)は、甲信越ブロック・山梨県。第51回(平成34年度)は、北海道でそれぞれ準備を進めていただいている。



<協議会>

◎全国基本調査中間報告（43都道府県からの回答）

調査・対策部 依田

・各県理事の皆様にご協力いただいた調査の現段階のまとめを説明。研修テキスト、はじめのいっぽなどの全難言協の事業に対する意見、各県の現状、今後の方向性への意見、難聴・言語障害の研究会組織と他の障害の研究団体の連携の在り方などが、説明された。

◎各県からの情報

それぞれの地域の現状と課題を交換した。内容は以下の通りである。

- ・どの教育機関が発達障害を対象としているか。研究会がどのように組織されているか。
- ・指導内容と今後の目指す方向。
- ・研修計画作成時に、難言関係の内容と、発達障害関係の内容を、どのようにバランスを取っていくか。
- ・経験の浅い担任に向けた研修の組み方。
- ・研究会の運営主体の違いによる、研究会運営の課題の違い。

◎事業部報告

各部長から、事業の進捗状況が報告された。庶務会計部からは、27年度末に発行した設置校一覧の間違いがあつたら、連絡をして欲しいとの話があつた。

(文責：広報部)